

『集古十種』印章類の資料的 性格について

On the Characters as Historical Materials
of Seals in "Shūko Jisshu"

佐藤洋一

はじめに

- ① 松平定信の領内巡見
 - ② 松平定信の資料情報収集システム
 - ③ 『集古十種』印章類の構成と特質
- むすびにかえて

【論文要旨】

本稿は、松平定信編纂『集古十種』印章類の資料的性格に関して分析したものである。はじめに、松平定信の白河藩主時代の領内巡見の概要を述べ、定信の文化財情報収集の状況を概観した。

①では、定信の文化財情報収集にあたっての資料情報収集行動の求心構造を理解するために、定信の白河藩在城時代の領内巡見に焦点を当てた。領内巡見における定信自身の直接的な資料情報を求める行動と、その定信の行動を扶翼する随行者の構成員である文人と画人との役割を考察した。

②では、松平定信の命により、各地の文化財情報を収集し、定信に画像を含む記録や実物資料などを添えて復命した人物の動向を概観した。具体的に取り上げたのは、一方は、古文書を模写して集めた文人の代表としての儒学者広瀬典の場合である。もう一方は、風景を写生したり、資料を模写して記録した画人の代表としての谷文晁の場合である。定信の命を受けて文化財情報を収集した彼らの行動の特質を検討した。あわせて、『古画類聚』の資料的性格を概観して、『集古十種』における定信の資料情報収集の理想像を類推した。

③では、『集古十種』印章類の構成について、木版による再版本を中心に、2種類の刊本の情報を加味して考察し、印章類の資料情報の特質と、刊本の組版の問題に内在する資料情報の不備を指摘した。また、『集古十種』印章類の資料情報と国立歴史民俗博物館『非文献資料の基礎的研究—古印—』報告書『日本古代印集成』の成果とを比較対照し、その資料的特質を考察した。

以上の考察を踏まえて、かつてある時点でその所在が知られ記録されていないが、現時点で亡失または所在が不明とされている伝世資料の内、『集古十種』印章類に収録されている資料情報の有効性について、現時点での見通しを述べた。